

▼概要

【使用ルールブック】基本6版

【人数】ひとり（+K P C）

【時間】6時間（RPによって変動）

【推奨技能】探索技能、自衛できる程度の戦闘技能

【あると良いもの】運

【舞台】海辺の街（半シテイ）

【ロスト】中〜高

・人魚を拾った日

・太陽と徒波

・きつと月だけがしるオーバード

3つの短いお話

▼P C・K P Cの作成

●P C（P L共有可）

年齢は成人済み。

職業は自由。

かつて祖父が暮らしていた街にある、海沿いの一軒家へ

1人で移り住んだ。

少なくとも1人暮らしが可能な程度には自立していること。

物語開始時にはすでに、移り住んで1週間が経過している。

街の住民は皆やさしく、住み心地は非常に良い。

○知り合い

街に住み始めてから、特に親切にしてくれている。槇島岬（まきしま みさき）という男性がいる。

家もどうやら近所のように、度々お裾分けをしてくれる。いい人。

○人魚について

子供の頃、人魚に助けられた事があり、人魚に対して特別な感情を持っている。

感情の形は問わないが、好意的なものであること。

●K P C

性別は男性・女性どちらでも可。

年齢はおおよそP Cと同じくらいか、数歳下程度。K P Cは自分の年齢を知らない。

言動によつてある程度性格が定まっている部分があるが、可能であれば好きにアレンジしても良い。

○P Cに対して

好意的な感情を持っている。

まともに恋をしたことなど無いだろうが、恋と呼んで差し支えない感情を持っていたても良い。

○街の住民に対して

街の住民は、K P Cの正体を知っている者がそれなりにいる為みな親切。K P Cはバレているとは思っていないが、親切に接してくれる為、比較的懐いている。

槇島とも知り合い。

○ステータス

通常の探索者を作る方法と同様。

K P Cはイドラの混血児である為、生き物を食べる事で、(偏りはあるが)進化として知識を得る事ができる。その為、特にE D Uは年齢での制限をうけない。

○職業技能

職業は特にない為、何かの職業をベースにして作成するか、それらしい技能を8個以下で設定して作成しても良い。

○必ず習得する技能

K P Cは人魚である為、そうそう溺れる事はない。

その為、水泳を95%取得する。これはその他等のポイントで取得する。

(ファンブルはファンブル。人間も転ぶことはあるので)

また、K P Cは自身の親であるイドラを目にしたことがある他、自身の出生についてもある程度は理解している。

イドラと同様に、精神に影響を与える呪文もいくつか習得している為、クトゥルフ神話技能を10%取得する。

【習得呪文】

・支配 (6版 P.259)

・精神的従属 (6版 P.266)

・セイレーンの歌声 (6版 P.267)

これらの呪文は、K P Cが街を散策する際に使用することがあったもの。基本、P Cに対して使うことはないが、場合によっては使用する可能性がある。(支配のみ)

その為、P O Wを多く取っておく等しても構わない。

○その他

イドラは遺伝子の供給（生け贄）が絶たれると萎びてしまいが、K P Cは人間としての側面を持つている為、普通の食事で賄う事ができるものとする。

K P Cは長寿と、生け贄さえあれば進化し生き続ける存在の血が流れている。

その為、K P C自身も不老不死に近く、身体の成長もある程度で止まる。

病で死ぬことはないが、過度の怪我によつては死ぬ。

K P Cは親であるイドラと同じ、変幻自在な性質を利用し、普通の人間と変わりない姿と人魚の姿をとるが、この二つの姿のみを己の個として認識している為、それ以外の姿を取ろうとは思わないだろう。

人間としての側面を持つK P Cは、今までも度々街へ赴くことがあった為、人間の世界や常識について、知らないことはあるが無知ではない。

▼舞台

海辺の少し寂れた街。

この街を含む周辺の一部の街は、深きものとのつながりが深い。

●本編が始まるより少し前のお話

この街の住人や深きものの混血種は、深きものを崇拝するかたわら、独自の文化を築いており、新たな信仰の象徴となる存在を探していた。

そこで目をつけられたのがK P Cである。

K P Cは僅かでも深きものの血が流れている上に、生命・進化の象徴とも言えるイドラの血が流れているからだ。

その性質は母なる海を体現するとも言える。

K P Cの存在を認知し、出生を理解した街の人間は、ひとつそりと小さな教団を創り、ひとつそりとK P Cを信仰していた。

ところが、P Cを探してひと所に止まらないK P Cに、一部の団員が痺れを切らし始める。

発足してまもないことから、教団内は見事に、KPCを教団の籠の鳥にしたい過激派と、留まつてほしくはあるものの、それでも自由であれと願う穏健派に分かれて対立してしまう。

そんな中、街へと引つ越してきたのがPCである。

KPCと縁のある人間の登場に、どちらの派閥の信者も大層歓迎した。(なので住民がみんな優しい)

とはいえ、過激派の人間の思想は変わらない。KPCを様々な未練から引き剥がした上で得ようと、虎視眈々と狙っている。

●NPC(槇島岬)

KPCを信仰するなまなき教団の教祖。穏健派。

色々と頼りなかったり、先走りすぎたりするが、悪い人ではない。多分。

深きものの血が混ざっているが、特徴が身体の部分的に現れるタイプの為、ほとんど普通の人。

(腕や脚に特徴が出ている為、露出しない様になっている)

教祖だが、本人の性格も穏やかな為、過激派の人間を牽制できていない。

PCとKPCには楽しく暮らしてほしいと思っている為、

何かと親切で協力してくれる。

PCの家にお金を送りつけたのもこの人。

▼KPCの背景

その昔、イドラの化身の気まぐれで交わった男がいた。

男は最中に呆気なく惨殺されてしまったのだが、その行為の果てに、神は混血の子を産み落とした。

産み落とした数個体のうち、1個体のみを残して再び吸収されてしまったが、その残された1個体のみ、信者は養育を許される。

その個体の姿は、何故か魚類の遺伝子をすでに持っていたのか、下半身が魚と言う奇妙な姿だったが、それ以外は殆ど人間の赤子と変わりなかった為、信者たちはその個体を大切に育てた。

この時残された個体がKPCであり、人魚の姿をとることができるのは、男には深きものの血が流れていた為である。

(深きものの血が、親であるイドラの性質に作用し、進化した個体がKPC)

男は深きものへの変貌前だったが、元々変貌の影響が部

分的にしか現れない者だった為、K P C への影響も部分的となつてゐる。

ある程度成長すれば、K P C は親であるイドラと同じ、変幻自在な性質を利用して、普通の人間と変わらない姿をとることも可能となつた。

しかし、その段階でイドラは信者へ残した個体を差し出せと命じた。

信仰以外で、目覚めてしまつたK P C への愛情を自覚した一部の信者は、神の怒りに触れてでもK P C を逃す事を決意する。

しかしその決意は達成され、K P C はたつた1人海へと逃がされた。

そしてその後、大海原を彷徨つていたところに出会つた（助けた）のが幼いP C である。

P C との出会いにはK P C にとつても運命の様なもので、その後も、もう一度会いたいと海原を彷徨い、時には街へ赴く事もあつた。K P C はこの時、大人への強い警戒心を抱いていた為（逃がすことを反対した信者によつて散々追われた）、P C 探しは難航。

P C は夏休みの数日間をその街で過ごしてただけだった為、タイミングが合わず、結局ともに再会できないまま月日が流れる。

大人になつたP C は、記憶の片隅に残り続ける人魚を想つて、人魚と出逢つた街へと移り住んだ。

そして、海沿いにある一軒家へ住み始めて、しばらく経つたある日、酷い嵐に見舞われた。

その頃、丁度何かを感じ取つて街の近辺を回遊していたK P C は、あつけなく嵐に巻き込まれる。

人魚でありながら波に揉まれ、吞まれ、打ち上げられたのは幸運なことに、K P C の家の目の前にある浜辺だつた。かくして、2人のささやかな物語が幕を開けることになるのだが、同時に、密やかな波乱も幕を開けていたのである。